（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079100162		
法人名	有限会社　北村		
事業所名	グループホーム　なかま		
所在地	〒839-0223　福岡県みやま市高田町岩津785番地　　TEL 0944-22-6568		
自己評価作成日	平成25年10月11日	評価結果確定日	平成25年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5－27　　TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成25年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今まで長年暮らしてきた生活リズムを崩さず、人間らしく平等で自由に家庭的な日常生活を継続支援し、残された能力を引き出し、ゆったりと落着いた不安の無い心で家庭との関わりも密にしながら、又地域の行事や、隣接する地域の方々との交流を深めながら過ごして頂くそれの実現の為には、小規模で介護の出来る、明るく、快適なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

みやま市郊外の、自然環境に恵まれた田園地帯が広がる中に、1ユニットのグループホーム「なかま」がある。オーナー夫妻の地域福祉に対する熱い思いが、職員全員に浸透し、利用者が地域の中で、自分らしさを継続し、心より笑える生活を支えるために10年前に開設し、利用者と家族に「ここを選んで良かった」と深い信頼の絆で結ばれている。オーナー夫人が、看護師である強みは、利用者の状態変化や急変時に、的確な判断で対応し、早期治療に繋がり、利用者の健康管理は万全である。町内会に加入し、隣組との付き合いは、地域の一員として、いきいきふれあいサロンに利用者と職員が参加し、親しくなった地域の方との交流が始まり、地域密着型事業所としての活動が始まっている「グループホーム　なかま」である。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25.26.27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20.40）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38.39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32.33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までされていた、三味線など参加されたり、近所に３０分ぐらい時々遊びに行かれてあった。	「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える生活」という、ホーム独自の理念を掲げ、職員は、毎朝唱和し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供に取り組んでいる。スーパーでの買い物、いきいきふれあいサロンへの参加、三味線を習いに行ったり、友人宅へ遊びに行く等の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に入って、葬式の世話や、缶拾い等行っている。市営住宅の人を送迎している。	町内会に加入し、利用者と職員は、地域の敬老会やいきいきふれあいサロンに参加し、隣組のお世話や清掃活動に取り組み、地域の一員として活動している。中学生の体験学習、ボランティア等を受け入れ、演芸会に地域の方を招き、利用者と一緒に桜餅を作り近所に配る等、日常的な交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のボランティアを受け入れているので、少しずつ理解されてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	軽い人は車椅子からソファー等に移されるのがいいと言って頂き今も続けている。	会議は２ヶ月毎に定期的に開催し、ホームの現状や運営状況、取り組みや課題等を報告し、参加者から、意見や質問、要望や情報提供が出され、充実した会議である。「冬は湯たんぽを入れて欲しい」「行事に力を入れ過ぎると介護がお留守になる」といった意見を反映して、利用者の満足を第一に考え取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、運営推進会議と２カ月に１回高田町グループホーム協議会等があり、市役所からも参加して頂いている。	２ヶ月毎に高田町グループホーム協議会に参加し、研修会や行政との情報交換を行い、連携が図られている。また、運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの実情や課題等理解してもらい、アドバイスや情報提供を頂き協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない為に、Dルームにて休んでいただいたり、ドアから見える位置にスタッフが座って観察している。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、朝夕の申し送り時に管理者が説明し、身体拘束が利用者に与える影響を職員全員が理解し、言葉の拘束も含め、身体拘束をしないケアの実践を目指している。また、新聞やテレビの報道からの事例を検証し、利用者が安全で安心して暮らせる介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待は、言葉の暴力もそうである事を話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、家族の方で、後見人になられた方もある。	権利擁護に関する制度の研修会に参加し、報告会を兼ねた勉強会を開き、制度について理解している。また、利用者や家族が制度を必要とする時には、資料やパンフレットを用意し、申請手続きの方法や関係機関を紹介し、成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用出来る支援体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	納得されるまで行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昔は、どこの家も実のある木があったので、植えてほしいとの事でいちぢく、柿、栗、さくらんぼ、アンズ等を植えている。又、畑は利用者さん希望でサツマイモと玉ねぎ、ネギ、ニラ等を植えている。	家族から「ここは来やすい」と訪問も多く、面会時に、利用者の健康状態や生活状況を報告し、懇談の中から家族の要望を聴き取り、出来るだけ運営に反映させている。ホームの庭には、利用者の希望で実の生る木がたくさん植えられている。また、毎月、「なかま新聞」を家族に届け、利用者の楽しそうな笑顔の写真や、日々の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	公休の希望が欲しいとの事で4回までは希望OKと個人交代もお互いに交渉が成立すれば可能としている。	職員の気付きや意見、提案等を、朝夕の申し送り時に話し合い、利用者一人ひとりのケアが、本人本位で行われているか等を常に注意し合い、職員間で「まず、やってみよう」と積極的に取り組んでいる。また、年に2回、ほぼ全員が集まる機会を設け、親睦を兼ねた話し合いを行い意見や提案を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	勤務は勤務時間、、準夜帯と交代がきちっと出来る様心掛けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって性別や、年齢は不問としている。	職員ロッカーや休憩室、休憩時間を確保し、希望休や勤務体制も柔軟に配慮しながら職員の特技を活用し、生き生きと働きやすい職場環境である。また、職員のスキルアップ研修や、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員一人ひとりが、意欲的に日々の仕事に取り組めるように支援している。	
14	１０	○人権教育･啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人教育時や必要に応じて教育している。	新人研修や勉強会の中で、利用者の尊厳を守るための介護の在り方を学習し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。特に、言葉かけや声の大きさ、目線等を注意し合い、利用者が安心して穏やかな暮らしが出来る支援に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人その人の能力や介護の力量に合わせて、研修を受けてもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月に高田町グループホーム連絡協議会を開催し、お互いの良い所を報告しあい自ら取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に時間をかけてその人に、寄り添い会話を密にしているので、取られ妄想などが減少している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のかかえている問題を充分に聞く事により、ここに入居して良かったという言葉が聞けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	竹の子の山に散歩をかねて出かけ、息子さんの作業を見たり。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえ等を取り入れラッキョのそろえ方や梅干しの漬け方等を教わったり、共に漬けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ミカンの本などを持参して頂き、皆で楽しんでいる。家族の家でお茶会をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	１１	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふれあいイキイキサロンに出かけたり、妹さんにはリハビリ体操に参加して頂いたり、敬老会にもお連れしている。	利用者と職員は、地域のふれあいいきいきサロンや敬老会に参加し、知人に会って懇談している。利用者の友人、知人の面会時には、お茶やお菓子を提供し、また来てもらえるよう声掛けをしている。また、利用者の希望で近所の友人宅やお寺に同行する等、利用者の馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者さんと一緒のソファにしたり散歩で、スタッフが入って会話して関わり合いを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経済的理由から特老に行かれたが、利用者さんと時々おはぎが好きだったので面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	１２	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	草取りが好きなので、時々畑に出ている。	職員はアセスメントを活用し、利用者の思いや意向を把握し、日常生活の中で活かす取り組みをしている。意向表出の困難な利用者には、職員が寄り添い、利用者の表情や仕草から、利用者の思いや意向に少しでも近づけるように努力している。認知症の方でも安心感は最後まで残ると考え、本人本位の支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に一人一人の本人や家族からの情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	女性なので、食事の下ごしらえ等は特に喜ばれるが、包丁などは難しい人もいて、能力に応じている。		
28	１３	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアープランを作成したらミーティングにかけて意見やアイディアを反映している。	利用者や家族の要望を聴き取り、担当者会議の中で前回の介護計画を評価し、利用者の残存能力を引き出す目標を設定し、職員間で話し合い、介護する側のペースにならないように、利用者本位の介護計画を６ヶ月毎に作成している。また、状態変化があった時には、家族と連絡を取り、その都度介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録も密にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	目薬や化粧品が無いと言われた時は購入する等の、介助に心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロンなどに参加したりコーラス発表会にも参加。大蛇山にも来て頂いている。		
32	１４	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は今までかかってあった医院を大切にして受診している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。通院介助を家族にお願いし、都合で職員が同行する事もあり、家族との医療情報の共有も出来ている。管理者が看護師という強みを十分に生かし、きめ細かな対応で、提携医療機関、訪問看護ステーションとの連携を図り、２４時間安心の医療連携体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のカンファレンスや申し送りも密にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その病院より往診にも来て頂いたり、一日に一回は面会を心掛けている。洗濯も依頼されしている。		
35	１５	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	なるだけ施設で看て欲しいと要望に答えている。早目の話し合いを心掛けている。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族と話し合い、希望を聴き取っている。利用者の重度化に伴い、家族と常に話し合い、主治医の判断と利用者や家族の思い、ホームの対応力を見極め、利用者にとって最善の方法を関係者で話し合い、共有して重度化に向けた支援に取り組んでいる。また、ホームでの看取りを経験し、職員のチームワークと介護技術の向上に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会や指導をしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練及びあたご荘への避難等、全員確認、地域からも連額が密である。	消防署の協力と指導を得て、昼夜想定の避難訓練を年2回実施し、避難経路、避難場所、消火器、通報装置等を確認し、職員一人ひとりが非常時に、冷静で迅速な対応が出来るように取り組んでいる。また、地域住民との協力関係もあり、非常災害時に備えて非常食や飲料水も用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重とプライバシーの確保は守っていて、言葉かけも丁寧である。	日常の中で利用者から経験豊富な知識を教えてもらう事も多く、職員は利用者を人生の先輩として尊敬している。利用者のプライドや羞恥心に配慮し、優しい言葉かけや、さりげないトイレ誘導等、利用者の尊厳を守り、ホームでの暮らしが楽しいものになるように日々努力している。また、職員の守秘義務についても徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆んど自分の意思決定により外への散歩や更衣なども行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵やパズルなども希望に応じて頂いているし、洗濯畳などそれぞれに支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時も、自己決定を大切にし洋服も持参して頂いたり、選んで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、そろえ物はもう少し取って来んね等言われたりしている。	料理の下拵えやテーブル拭き等、利用者の残存能力を活かして手伝ってもらい、庭で採れる新鮮な野菜を使った美味しい食事を提供している。調査訪問日には、ホットプレートで焼いているお好み焼きを、利用者が立ち上がってひっくり返し、成功すると拍手が起こる等、和気藹々とした賑やかな食事風景である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時のおやつ時も、ミルクが消化がいいと言う事で取り入れたり、いりこをすったりしてデーター的にも異常の人はいません。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員口腔ケアーをしている。		
45	１９	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導は訴えの悪い人は3Hごとに誘導しているので、昼間オムツの人は一人もいない。	トイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導で、日中は全員トイレでの排泄を支援している。また、排泄チェック表を見ながら、水分や食物繊維を増やしたり、腹部マッサージ等取り入れ、利用者の排泄が定期的に出来るように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレにゆっくり座る事により、排泄可能な方もあり個別的に取り組んでいる。立ったり座ったりの運動に心掛けている。		
47	２０	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けをして入って頂いている。拒否される時は時間をおいて再度促している。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望や健康状態に配慮し、出来るだけ個々の希望に沿った支援をしている。利用者の自宅庭の柚子を取りに行き、湯船に柚子を沢山入れて楽しい入浴が出来るように工夫している。また、入浴拒否の利用者には、気分を変えたり、職員が代わって声掛けする等、無理強いせず、利用者の意思を尊重した入浴の支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝早起きの人が多く8時頃は自室に自ら帰られる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症のメマリーや血圧の薬などは注意して観察している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花の好きな利用者は花を、掃除好きな利用者は食事の下ごしらえも包丁を使える人と玉ねぎの皮をむいてもらう人等。らっきょそろえも、揃えてもらって、その後スタッフが見えない所で整えたりしている。		
51	２１	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いきいきサロンなどに参加しや敬老会などコンサートのお誘い等声かけして頂く。お茶会などにも参加している。	気候の良い時期は、毎日のように散歩に出かけ、庭の花の手入れや草取り、野菜の収穫等、利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。地域の行事やいきいきふれあいサロンに出かけたり、道の駅で買い物したり、アイスクリームを食べる等、利用者の気分転換と生きがいに繋がる外出の支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布をもってある方もあり、目薬や冬のホッカロン、菓子、化粧品を買われる方もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時はかけて頂いている。誕生日や敬老の日には特に多い。		
54	２２	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光に対しては直接顔等に太陽があたらない様、短いカーテンを利用して工夫している。	利用者が、一日の大半を過ごすリビングルームは、庭に面して日当たりも良く、季節毎に木々に生る実や草花を眺め、ゲームをしたりゆったり過ごす利用者の笑顔が印象的である。ベンチに座ってお茶を頂きながら寛げる広いウッドデッキから、梅や無花果、杏子、サクランボや季節毎の草花が楽しめる等、居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅に、長椅子を置いている所で、2～3人で話したりされる。		
56	２３	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファーを持ち込んだり使い慣れたタンスやマッサージチェアーを持ってある。	入居時には、新品でないようにお願いし、利用者が使い慣れた枕や布団、ベッドや箪笥、家族の写真等、家族の協力で持ち込んでもらい、出来るだけ利用者が安心して穏やかな暮らしが出来るように工夫している。また、趣味の物やマッサージチェアー等が置かれ、居心地良く過ごせるようにその人らしい部屋を整えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力では立ち上がる事や歩行が出来ない方は、歩行器を使用して自由に部屋へ行ったり、外を眺めたり、トイレに行ったりされてある。		